

広報 もり 中部の森林

私の森語り「今日も安全に間伐を行なおう」
NPO法人 名古屋シティフォレスト倶楽部
理事長 山田 均

写真：入笠山からハケ岳を望む（南信署管内）

特集

- ・ 中部森林・林業交流発表会
- ・ 木曾森林ふれあい推進センターの取組
- ・ 中部の森林 フォトコンテスト2025 審査と表彰式

シリーズ

- ・ 現場最前線からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局

2026/No.258

令和七年度 中部森林・林業交流発表会

一月二十七日と二十八日の二日間、中部森林管理局の大会議室にて「中部森林・林業交流発表会」を開催しました。

本発表会は、管内の各森林管理署等や地方自治体、教育機関、林業事業体等が日頃の取組成果を発表することを通して民有林と国有林の交流を深め、成果の普及を図り、森林・林業・木材産業の発展に資することを目的に毎年開催しているものです。

今年度は、国有林の部で十四課題、県や高校関係者などの民有林の部から五課題の発表があり、審査・評価の対象となる国有林の部では、六名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞一点と、優秀賞一点が選定されました。



【局長賞最優秀賞】

造林コスト低減に向けた超緩効性肥料の活用効果について

(木曽森林管理署・日本林業肥料株式会社)

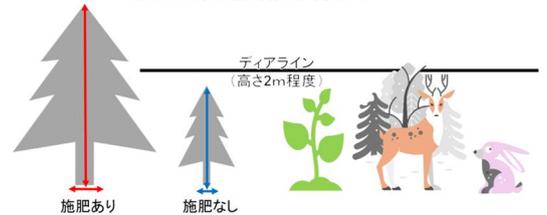
近年、低コスト造林の実現に向け、大苗の活用による下刈の削減やドローンでの苗木運搬による作業効率化など様々な取組が進められています。

木曾署では令和四年度のヒノキ苗の植付けの際に、株元へ長期肥効型(約二年～二年半)の肥料「マウソントキングS」の施肥を行い、成長促進効果を検証するために設定した試験地において植栽木の成長量を調査してきました。

これまでに年一～三回の成長量調査を行い、計五回、約四年間分の植栽木の「樹高」、「根本径」および「形状比」のデータを基に、施肥区と無施肥区による成長量の比較、肥料代と施肥にかかる労務賃金(人件

課題背景

～施肥による下刈と獣害低減効果のイメージ～



- ・下刈の早期終了
- ・シカ&ウサギ&ネズミの獣害低減

費を試算し、下刈や獣害を防ぐための忌避剤散布に要するコストの比較を行いました。

施肥区と無施肥区の平均樹高を比較したところ、図1のとおり1成長期の成長差が最も大きく、2成長期以後も差が広がる結果となり、四年間の樹高成長量を比較しても明らかに施肥によって成長が促進されていることが分かりました。また、図2のとおり形状比についても施肥区の方がやや小さく、施肥を行ったことによる徒長(※)は確認されませんでした。

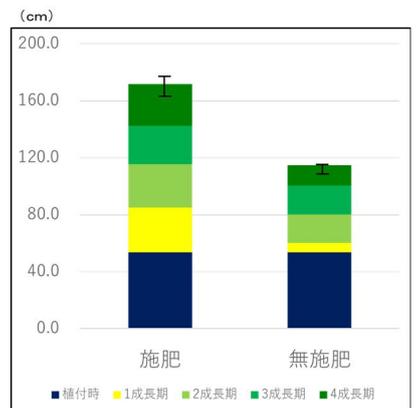


図1：平均樹高



図2：平均形状比

これらの結果から、長期肥効型肥料が下刈や忌避剤散布作業の削減に貢献できることが示されましたが、施肥のみで獣害を完全に防ぐことが困難な場合もあるため、その他の獣害対策を組み合わせ、トータルコストが削減されるよう今後とも検証を進めます。更に、カラマツやスギの植栽木においても施肥による成長量比較を行う予定です。

※肥料の過多や光線の不足などが原因で、植物の茎葉がのびすぎること。

【局長賞優秀賞 二点】
治山事業における竹の利用について
〜竹材による筋工の施工〜

（伊那谷総合治山事業所）

治山事業では、小径丸太を活用した木製構造物を採用するなど木材の有効利用に努めていますが、治山事業において標準的に利用する直径十センチ程度の丸太の供給量が減少傾向となっています。また、当所が存在する長野県下伊那地域においては竹林の維持管理が課題となっていることから、小径丸太の代替資材として「竹」を用いた構造物として、丸太筋工の横木丸太を竹材に置き替えた「竹筋工」を試験的に施工しました。

丸太筋工は斜面を流下する雨水の分散や植生環境改善を目的とした工法であり、竹を用いた場合に同様の目的が果たせるかが重要となります。

実際の施工においては、丸太との資材特性の違いから固定や段数などに工夫を要し、構造に丸太筋工と

異なる箇所が生じたものの、竹筋工は丸太筋工と同様の目的が果たせる構造物として施工できることが分かりました。また、今回使用した竹材は丸太より安価となりました。



丸太筋工の施工状況



竹筋工の施工状況

施工者からの聞き取りでは、「作業の間は丸太筋工と同程度に感じ、竹材は軽重で作業が楽」という声の一方、「竹を重ねた際に滑りやすい」「曲がり強いものがあり横木の間に隙間がでやすい」などの課題も見つかりました。

本取組はコストや労務負担の低減に加え、竹材の活用を通じて竹林の整備に寄与し、林地保全や獣害対策にも貢献できると思われる。今後は施工後の経過観察を行いつつ、工法の確立に向け課題解決を進めていきます。

ニホンジカ捕獲における、見回りの超軽減化の実現に向けて

（南信森林管理署）

ニホンジカ捕獲事業で実施するくくりわなの見回りを、現地に行かなくても確認できるカメラを導入することで、見回りにかかる負担を軽減化できるのではないかと考え、現地調査を行いました。また、昨年度カメラを使用せず、わなの見回り

を行った際、発生したコスト及び労力との比較検証を行いました。

カメラは、スマートフォンでの遠隔操作により、水平に三五〇度、垂直に九〇度回転し、広範囲に設置したわなを昼夜問わずリアルタイムで確認することが出来ます。また、ソーラーパネルで発電し、携帯電話の電波圏内であれば操作可能です。夏季と秋季の計十日間、わなとカメラを設置し、毎朝、出勤後にカメラでわなの状況を確認できたことで、現地に行く必要があるかの判断ができました。



現地の様子を動画で確認できるカメラ映像

カメラによる確認と人力による見回りをそれぞれ一年間実施した場合に係る経費等を比較すると、カメラによる確認の場合は三五万円のコスト削減と約五五〇時間の労力短縮が可能であり、費用対効果で優位となることが分かりました。

更に、カメラはクマなどの錯誤捕獲の確認が可能であるため、迅速かつ安全に対応することも可能である一方、ソーラー電源や通信環境の制約などの課題も明らかとなりま

防犯・防獣用通信カメラ MCI (自動カメラ)

農場や農地での農作物の盗難防止対策として使用されることが多い電源が必要無く、携帯の電波圏内ならスマホと通信することが可能

本体価格	¥54,780
SIMカード価格(6ヶ月間)	¥5,280
検知センサー	検知距離:最大10m
動物検知機能	あり(スマホへの通知可能)
カメラの可動範囲	水平回転:0°~350° 垂直回転:0°~90°
表示色	昼間:フルカラー 夜間:フルカラー/モノクロ
電源	ソーラー電源
映像視聴	リアルタイム映像・録画映像 (遠隔視聴可能)
対応回線	回線事業者:NTTドコモ 4G/LTE/3G

※SIMカードは通信を開始した日から180日、または10GB使い切るとまで使用可能

アンテナ
カメラ
センサー
ソーラーパネル

製造元:株式会社Azxi(株式会社エイゼックス)

した。今後、改善策を講じて複数箇所にカメラを設置し、長期検証の中で実績を積み上げ、現場負担の抜本的な解決と持続可能な捕獲体制の構築を目指します。

このほかの国有林の発表

「森林技術部門」では、地上レーザ計測やドローンなど、ICT技術を活用し、収穫調査や林道測量等の効率化を目指すもの、造林作業の省力・低コスト化を目的に、重機により地拵を実施した後の草本の抑制効果や植栽木に与える効果を検証したものや通常は実施しない冬期の植栽を実施し苗木に与える影響について検討したものがありました。また、大規模な集中豪雨や雪崩発生時の流木による下流域への被害を防止するために開発された「独立基礎型流木捕捉工」の効果検証多様な森林への誘導に向けたモデル林における施業方法の検証や自然の推移に委ねたヒノキ試験地の経過調査、超緩効性肥料を用いたエ

リートツリー等コンテナ苗の成長促進効果や植栽適地の検証に向けた取組についての報告があり、工夫と熱意が感じられる発表が続きました。



発表会場の様子

「森林保全部門」では、地すべり防止事業地に施工した水路に両生類等の落下防止対策や脱出スロープを設置するなど、水路の保全対策により自然環境への配慮を行った発表に問題意識の高さと工夫が感じられました。

「ふれあい・地域連携部門」では、相続土地国庫帰属制度(森林等の土地の所有権を相続した人が一定の要件を満たした場合に土地を手放して国庫に帰属させる制度)により帰属された森林について、実地調査や地理的環境等の分析などを行った先進的な取組が紹介され、今後の国有林の管理体制などを考える上で非常に役立つ発表でした。

民有林・学生による発表課題

ビオトープ「飛騨の森」再生整備
生物多様性の回復と環境教育の
実践

(飛騨高山高等学校環境科学科)



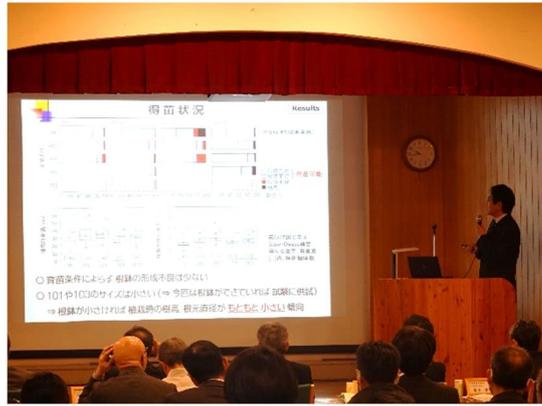
発表者：高原 悠太さん・岩田 結愛さん



発表者：宇敷 京介さん

下刈りを部分省略した再造林地の
八年後の林分構造

(岐阜県森林研究所)



発表者：渡邊 仁志さん

ヒノキ実生コンテナ苗の育苗成績
および初期成長に及ぼす根鉢容量
と元肥量の影響

(岐阜県森林研究所)



発表者：今泉 早貴さん

現場出張時における公用車事故に
ついて、林道等で発生した事故の
分析及び対策の検討

(国立研究開発法人森林研究・整備
機構森林整備センター中部整備局
津水源林整備事務所)



発表者：星 涼太さん

愛知県版林分収穫予想表の作成
(愛知県森林・林業技術センター)



今年度の交流発表会を盛り上げてくださった発表者のみなさんとの記念の1枚

今年度の発表会の発表課題については、中部森
林管理局ホームページ内で配信していますの
で、是非ご覧ください。
【技術普及課】



森林環境教育への支援や、森林ボランティア
団体への技術支援などを行っています

木曾森林ふれあい推進センターでは、長野県の南西部に位置する木曾谷流域の国有林等を活用し、森林環境教育に携わる学校や関係者、自然再生・生物多様性の保全に取り組むNPO・ボランティア団体等への技術支援等を行っています。今回は当センターの新たな取組である森林環境教育への支援と、二十年継続している森林ボランティア支援の取組について紹介します。

◆森林環境教育への取組

当センターでは令和六年度から、未就学児を対象とした森林環境教育を支援するため、木曾森林管理署管内の木曾町・上松町・木祖村・王滝村の認定こども園や保育園での森林教室を始めました。

子どもたちが森林へ関心を持つきっかけとして、小中学生を対象とした森林教室はこれまでも行われ



はげ山に木を植える園児たち

てきましたが、さらに早い幼児期からの森林環境教育への関心が高まっています。その際は、日々幼児と接する保育士の方の森林環境教育への理解に繋げることも大切です。幼児は学年が一つ違うだけで出来ること、理解することの差が大きいため、園児数の少ない園では年少さんに照準を合わせ、園児数の多い場合は学年ごとに内容を変えるなど状況に応じて取り組みました。



目かくしで樹を触る園児たち

当日の天候などにより、内容は変化しますが、木祖村のとのみ保育園では、最初に屋内でどんぐりの生態や仲間の増やし方を学ぶ「どんぐりクイズ」を行いました。その後園庭に出て聴診器を使ってクヌギ（どんぐりの一種）の樹から聞こえる音を聴いたり、目かくしをして樹木を触り、触った樹を当てるネイチャーゲーム「目かくしイモ虫」を行いました。

いつも見ている樹木を、目を使わず触ることで確かめる面白さを通じて、森林への親しみが増したのではないかと思います。



「もこもこ」を探す園児

また、上松保育園では、近くの公園を利用して「自然のかさねことば」を探しました。「ぼたぼた」「かさかさ」「さらさら」等リズムよく重ねた擬態語・擬音語のカードを引いてそれを自然の中から探し出すゲームです。

自然の様子を言葉として表現して楽しむことの面白さや、自然が持つ表情の違いや豊かさに気づくきっかけになったかもしれない。保育士からは「様々なネイチャーゲームを普段の保育でも取り入れていきたい。」と感想を頂き、今後

も各園の依頼に応えながら、より良い森林教室を開催する予定です。

なお、当センターでは小中学校の教職員を対象とした森林・林業体験学習会を毎年開催し、教職員の森林環境教育への意識向上に努めます。今後も未就学児から初等教育での子ども達の学びに役立てて頂けるよう取り組みます。

◆森林ボランティアへの技術支援

森林ボランティア・NPO連携推進会議

この会議は、中部森林管理局管内（長野、愛知、富山、岐阜各県）の森林ボランティア団体・NPO等が一堂に会し、研修、交流を通じて更なる資質の向上と連携強化を図ること等を目的としています。

平成十七年からスタートし、中部局管内の各地で開催してきました。これまで約二十年の流れと、令和七年度の取組を紹介します。

【平成十七年度～平成二十年度】

「グリーンボランティア・サミット」の名称で、中部森林管理局が主

体となり開催されました。

第一回目は長野県上松町の赤沢自然休養林において、森林ボランティア団体等と、各森林管理署等の担当者等併せて七十三名が参加して開催され森林ボランティアに係る講習を兼ねて、チェンソーの取り扱いやネイチャーゲーム等のワークショップの体験学習、講師を招いたボランティアについての講演、自然休養林内の散策等が行われ二十年度までに愛知県や岐阜県でも開催されました。



森・ふれあいフェスタでの記念撮影（平成 24 年度）

【平成二十一年度～平成二十八年
度】

「森林ボランティア・NPO連携推進会議」に名称を変更し、中部局とNPO団体代表による実行委員会が主体となり開催されました。

また、実施内容を講習会及び意見交換会に加え、会議参加者が協働して市民参加型のワークショップを実施するイベント「森・ふれあいフェスタ（自然と遊ぼう森に学ぼう）」が始まりました。

平成二十四年度は岐阜県中津川市の文化会館と河川公園芝生広場において、森林ボランティア団体等と局署等の職員併せて七十五名が参加し二日間開催されました。

初日は講師を招いて木曾川や支流での木材流送の絵図など、貴重な史料に基づく講演、各団体の活動の現状や課題、意見交換等を行い、二日目には一般の方を招いての竹とんぼ作り、丸太切り等のブースを設けたワークショップを開くと共に、チェンソーアートの実演等が行われました。

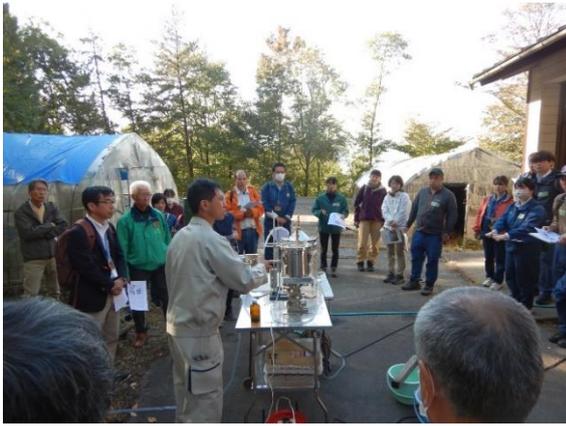


かんなくずプールの様子（平成 29 年度）

【平成二十九年～令和元年度】

NPO団体代表（現在は（特非）やまぼうし自然学校、一期会、（特非）名古屋シテイフォレストクラブの三団体）による実行委員会が主体となつて開催する形となり、当センターは委員として参画しました。

会議内容は、これまでと同様に現地視察や意見交換、市民参加型のワークショップを実施するイベント「森・ふれあいフェスタ」を長野県の松川村等で開催し、一般市民の皆さんにミニイス作り、ひのき箸作り、かんなくずプール等の体験を楽しんでいただきました。



長野県林業総合センター視察の様子（令和5年度）

【令和二年度～令和七年度】
令和二年度と令和四年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となりました。
また、新型コロナウイルス感染症の影響等による各団体の小人数化等により、実行委員会への負担が大きくなったため、市民参加型ワークショップの開催は見送り、団体間及び各署との情報交換による連携及び視察等を主とした会議となっています。

令和七年度は、長野県小諸市の「安藤百福記念 アウトドア アクティビティセンター」において、森林ボランティア団体等の五団体と局署職員併せて二十六名が参加し開催されました。
活動紹介や各団体が抱えている「イベントの集客・後継者の育成・ノウハウの継承」等の課題についてグループディスカッション形式で意見を交し、課題解決に向けた事例や提案等を共有しました。
また、自然体験学習プログラムの一環として行われている、青竹を芯



完成したバウムクーヘン（令和7年度）

にバウムクーヘンを作る「青竹クーヘン作り」を体験し、指導者からの「事前に参加者の食物アレルギーの有無を確認し食材を選定する」「青竹に切り込みを入れ熱膨張による破裂を防ぐ」等の安全対策について説明を受けながら、焼き上げたバウムクーヘンを味わいました。

この連携推進会議は、新型コロナウイルス感染症の影響による中止もありましたが、森林ボランティア・NPO 団体や各署等の方々のおかげで長年にわたり開催が継続しています。

二十年の間には、本会議の必要性等が議論された時期もあります。が、各団体の皆さんと国有林との連携や繋がりを再認識する貴重な機会となりますので、中部局管内にある団体の方は是非ご参加ください。
当センターでは本会議の開催も含め、今後も管内で活動される森林ボランティア団体等の連携や活動を支援してまいります。

【木曾森林ふれあい推進センター】

木曾森林ふれあい推進センターの活動の様子は、機関誌「森林ふれあい情報」で紹介しています。
どうぞこちらもご覧ください。



参加者全員での記念撮影（令和7年度）

全国分布の最西端に群生する

大白川ドロノキ希少個体群保護林

設定目的

大白川国有林の一部に群生しているドロノキは、全国分布の最西端にあたるとされ、かつ、高木となっていることから、主要林業樹種として保護することを目的としています。

地況・林況

大白川の川沿いに成立する林齢約二百年のドロノキ大径木林であり、白山のドロノキ林は国内のドロノキ分布の西限近くに位置しています。

シリーズ

中部の保護林(第53回)

所在地
岐阜県大野郡白川村



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイアルイン：026-236-2612

※詳細は、コードを読み込んでください。

<現場最前線からの便り>



事務所からの眺望(関田山脈)

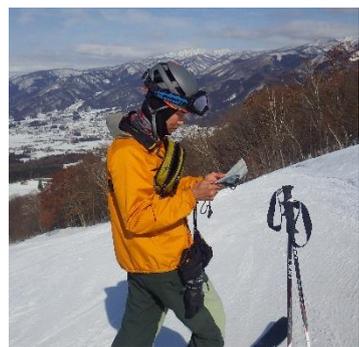


信越トレイル

このため、地域から要望があつた際は署の担当者とも相談し対応するほか、国有林の事業等について役場等へ説明を行うなど、地域との関係を意識して日々業務に取り組んでいます。



野沢温泉村 道祖神祭り



筆者(貸付地確認の様子)

野沢森林事務所は、温泉地として有名な長野県北部の野沢温泉村に在し、事務所からは関田山脈の眺望がよく、近隣には外湯もあります。現在は隣村の木島平森林事務所の業務も行っており、飯山市、野沢温泉村、栄村の一部、木島平村、山ノ内町の五市町村の国有林約一一、八〇〇ha(諏訪湖約九個分)を管轄しています。

- この地域の国有林の特徴は、
- ① 戸狩温泉スキー場、野沢温泉スキー場、スノーリゾートロマンスの神様、ユキキジマスノーパークなど複数のスキー場
 - ② スタカ湖、カヤの平などのキャンプ場
 - ③ 飯山市と新潟県の県境に位置する関田山脈には斑尾山から苗場山を結ぶ全長一一〇kmの信越トレイル

また、毎年一月十五日には野沢温泉村で、国の重要無形民俗文化財に指定されている道祖神祭り(火祭り)が開催されます。社殿を造る御神木(杵柱)や桁などの木材(ブナ)を将来にわたり持続的に供給することを目的に、国有林の一部を「道祖神祭りの森」として協定を締結するなど、地元との繋がりが特に深い事務所です。

森林官は、現場に一番近いところで、森林の将来像をイメージし、森林整備方法を検討するなど、やりがいのある仕事です。業務には幅広い知識・経験が必要となりますが、各種研修もあり、自己研鑽の機会は多くありますので、興味のある方は、森林官を目指してみたいかがでしょう。

野沢森林事務所

野沢森林事務所は、温泉地として有名な長野県北部の野沢温泉村に在し、事務所からは関田山脈の眺望がよく、近隣には外湯もあります。

また、毎年一月十五日には野沢温泉村で、国の重要無形民俗文化財に指定されている道祖神祭り(火祭り)が開催されます。社殿を造る御神木(杵柱)や桁などの木材(ブナ)を将来にわたり持続的に供給することを目的に、国有林の一部を「道祖神祭りの森」として協定を締結するなど、地元との繋がりが特に深い事務所です。

森林官は、現場に一番近いところで、森林の将来像をイメージし、森林整備方法を検討するなど、やりがいのある仕事です。業務には幅広い知識・経験が必要となりますが、各種研修もあり、自己研鑽の機会は多くありますので、興味のある方は、森林官を目指してみたいかがでしょう。



現場最前線からの便り
国有林の現場の最前線となる森林事務所・治山事業所等の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

シリーズ

私の森語り

もりかた
森林・林業との関わりの中で、様々な課題に
挑戦されている方の取組を紹介します。



「今日も安全に間伐を行なおう」



NPO 法人名古屋
シティフォレスター倶楽部
理事長 山田 均

■自己紹介

現在は森林の整備活動を行っていますが、名古屋生まれの名古屋育ちで、現役時代は普通のサラリーマンで森林とは何の関係もありませんでした。

定年が迫るころ、何か定年後のやりがいを見つけないかと思い、妻が相続で貰った杉とクヌギの人工林の手入れを目指し、チェーンソーの扱いや伐倒技術を教えてくださいました。

■活動内容

当倶楽部は、森林の重要性・必要性を認識して倶楽部員相互の親睦と林業体験活動を通して豊かな森林づくりを進めることを目的として、中部森林管理局の協



会員の集合写真 チェーンソーを扱う女性会員もいます

力を得て平成十二年一月三十日に設立されたボランティア団体です。(平成二十三年三月に法人認証され現在に至っております。)

令和七年五月の倶楽部員数は、二十三名で、年間の活動日数は約五十日、一回当たりの平均参加者数は十二名で年間六百人日ほど活動しています。



新入会員の指導も丁寧に行います

活動フィールドは、愛知県内の国有林二か所、県有林一か所、豊田市内の民有林一か所の計四か所です。それぞれ協定を結び、育林年数に応じた除伐や間伐や枝打ちなどを年間スケジュールを立てて行っております。

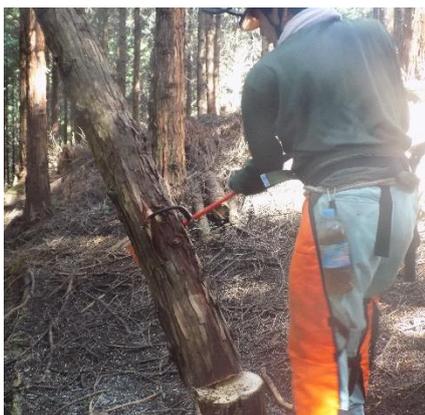
倶楽部の紹介なので堅苦しく記載しましたが、倶楽部員の多くは「思い通りのところに倒せたら爽快である。」「そのために技術を習得したい。」「伐倒の技術教本では禁止事項がいくつあるが、それがなぜ禁止なのか。」「禁止事項を安全に回避する方法はないか。」を日々考えて活動しています。スローガンは、「安全第一で活動し、無事に家に帰ろう」です。

■メッセージ

「間伐」や「チェーンソー」というキーワードでホームページを探して入会してくれる会員もいましたが、今は関心を示して頂ける方が一巡したのか問い合わせ件数が減少しています。

山道をチェーンソーを担いで目的地に入り、手入れの行き届いた自慢のチェーンソーを使って伐倒する。思い通りに倒れないこともあるが仲間と協議しながら最善策を見つくる。

こんな休日を我々と一緒に過ごしませんか。興味がありましたら、ご連絡ください。



掛かり木になった時は木廻しで対応

■連絡先

名古屋市緑区潮見が丘三・五七 NPO
法人名古屋シティフォレスター倶楽部
<https://nagoya-forester.or.jp/>



① 森林鉄道の台車に載せられる心柱用材
巨大な材なので載せ換えるだけでも現地
関係者総出で半日以上かかった

「姫路城心柱用材」その三
前代未聞の「トリプル・スカイライン方式」で谷の対岸まで運ばれた心柱用材は森林鉄道の軌道に載せられ、木材業者に引き渡されたことで付知営林署の生産事業としては終了となりました。

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第 53 回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登



② 森林鉄道での長い用材の運搬イメージ
カーブでは台車の間隔を詰めて曲がる

木材業者が地元の営林署OBを雇い入れ、以降の運搬作業を引き継ぎました。通常の木材であれば必要な長さで切られて運ばれるのですが、今回は長い材のままではなければならぬので、五両の台車を用いて十六キの軌道を手動ブレーキで制動しながら下ろすこととなりました。何しろ長さ二十八メートルの材ですので、カーブでは台車位置を前後に調整しながら慎重に少しずつ動かされました。

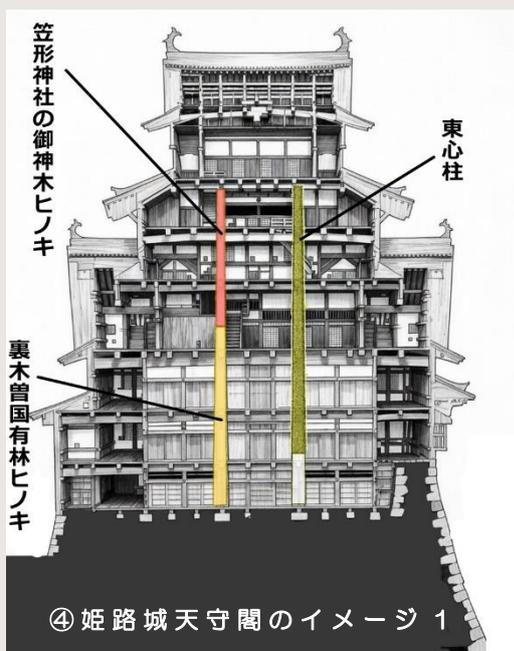
軌道を用いての山下りが始まって五、六日が経過し人里に近づいた頃、大事故が発生してしまいます。なんと台車が転覆して心柱用材が折れてしまったのです。慎重に慎重



③ 下付知で北恵那鉄道の貨車に載せられる
裏木曾の心柱用材

を重ねて下ろし、やっと比較的平坦な場所となり、これからディーゼル機関車で引いてもらおうという場所で操作のミスで用材が台車もろとも軌道から転落し、先端から七、八メートルのところからポツキリと折れてしまいました。
「シンバシラオレタ ムネン」との電報は姫路城関係者を愕然とさせました。しかし、他の木を新たに探すことも工期の関係で不可能です。不幸中の幸いとして、折れ口は比較的きれいであり、手を加えれば他の木と継ぐことが可能だと判断されました。

旧・西心柱はツガとモミの二本の柱を「継いだ」ものであり、「昭和の大修理」では将来を見据えて丈夫なヒノキの一本柱にしようと試みられたのですが、結果的に元のよう二本の柱を「継ぐ」かたちとなりました。

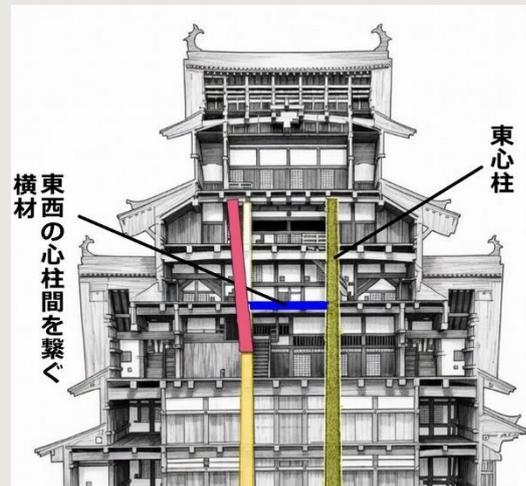


こうして事故に遭いながらも用材は使われることとなり、下付知の貯木場まで運ばれました。そして下付知から北恵那鉄道で国鉄中津川駅まで、その後は国鉄で姫路へと送られていきました。姫路城西心柱としては裏木曾から送られたヒノキの根元から十五・六段の部分が使われることとなり、上部は心柱用材の候補でもあった地元の兵庫縣市川町の笠形神社の境内の御神木ヒノキを「継ぐ」ことになりました。



⑥ 平成 27 年に岐阜県中津川市と兵庫県市川町によって作られた姫路城西心柱用材の継手構造のレプリカ（中津川市役所ロビー）

後日、運搬中に折れたことが不幸中の幸いであつたことに関係者は気付くことになりました。工事の過程で明らかになつたのですが、「継ぐ」心柱でないと構造的に天守閣が組めないことが判明したのです。西の心柱が一本柱であつたのなら、下層の工事が進むと固定され、上層で二本の心柱を繋ぐ横材を入れられなくなってしまうのです。



⑤ 姫路城天守閣のイメージ 2 2本継ぎの西心柱を繋ぐ横材を入れることができる

気が付いてみれば元々が二本継ぎの西心柱であつたのも理由のあることであり、全ては収まるべきところに収まったとも言えます。岐阜県中津川市と兵庫県市川町では姫路城西心柱となった二本の木を後の交流事業で「運命の木」と呼んでいます。確かに何かの「縁」を感じさせるような逸話です。

参考文献

「随想 姫路城の心柱物語」(福山幸七/名古屋営林局 O B) / 「古写真で振り返る「昭和の大修理」解説資料」(姫路市立城郭研究室) / 「築城譜 国宝姫路城昭和築城二十周年記念誌」(加藤得二) 画像①は福山氏が姫路城管理事務所に寄贈したアルバムより(現在は姫路市城郭研究室が所蔵)



「ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、下記コードを読み込んでください。」



中部の森林 フォトコンテスト2025 審査および表彰式

昨年の四月中旬から十二月中旬までを応募期間としていた「中部の森林 フォトコンテスト二〇二五」

では、「山の仕事を惹きつける山の表情」と「人の心を惹きつける山の表情」の二つのテーマを設けて作品を募集しました。締切りまでに、中部局管内の四県を中心に、十一の都県から合計一三〇件近くの作品が寄せられました。

応募作品は、局署等の幹部や若手、共催団体、国有林モニターの方などにご協力いただく形で事前投票を行い、二月十二日に審査を実施しました。

審査は、二〇二五ミス日本みどりの大使の佐塚様、長野県林業大学校の萩原様、岐阜県立森林文化アカデミーの塩田様、名古屋造林素材生産事業協会的美谷添様、当局的総務企画部長を加えた五名により、ウェブを併用して実施しました。

どの作品もそれぞれ良さがあって評価は難しく、審査員は何度も作品を見返しながら採点を進めました。

審査員の方から寄せられたコメントを紹介いたします。

【ミス日本みどりの大使 佐塚様】

二つの部門にそれぞれテーマが設定されているにもかかわらず、撮影者によって写真の切り取り方や写る山の表情、人の佇まいが全く異なり、十人十色の作品を楽しむことができました。審査では、一つ一つの作品の魅力を評価することは非常に難しく感じるほど力作が多く、選ぶ側でありながら見入ってしまう場面も多かったです。今後さらに山や林業を題材にした写真が増え、森の魅力を伝える人が広がってほしいと感じます。



真剣に審査を行う様子

【長野県林業大学校 萩原様】

どの作品も素晴らしく、審査員としてそれぞれに評価点を付け、受賞

作を選ぶということ、大変苦労しました。テーマーでは、林業という仕事の尊さ、清々しき、大きき、厳しさを改めて感じ、心を動かされました。テーマーでは、雄大な自然が放つとびきりの一瞬を映し出した作品に、自分も行ってみたく思ったり、自分では行けないけど、いいなあ、と憧れの感情を抱きました。

【岐阜県立森林文化アカデミー

塩田様】

テーマーでは、人の労働という素敵なワンシーンを切り取った作品に心打たれました。こうした一つ一つの行為、人の汗の結晶の先で僕らの生活は支えられている。そんな感謝の気持ちを覚えながら拝見しました。テーマーの最優秀賞、巨木は一本あるだけで神々しいのに、三柱もそろって、アングルも面白く、山の神様たちが楽しそうに談笑している様子がイメージされ、会ってみたいくなりました。受賞作以外にも心動かされる作品が沢山ありました。

【名古屋造林素材生産事業協会

美谷添様】

テーマーでは、やはり実際に山で働いている人の姿、表情に注目しま



萩原様、佐塚様、塩田様(画面内)、美谷添様、永田部長

した。また、山の仕事をもっと多くの人に知ってほしいという思いから、なかなか実際に目にするのでできない作業の現場が切り取られている写真を選びました。テーマーは、自分では直接目にする機会がない、厳しく雄大な自然の風景にかげひ行って見たいなあ、と思った作品を選びました。どれも美しくフォトレンダーにするとうまいと思ふような作品ばかりでした。

三月十二日に中部森林管理局で表彰式を行いましたので、その際の様子を次ページに紹介します。

3月12日に開催した表彰式の様子

テーマ1 最優秀賞「空師」

伊藤さん

ご自身ではなく、職場の先輩が作業する様子を撮影された作品です。先輩からは「お前はまだ（上で作業したら）アカン」と言われているようですが、先輩と共に作業する時のため技術を習得する日々です。現在3m程度までを経験、さらに上での作業を目指します！



テーマ1 優秀賞「杣」 西原さん

20年に一度の儀式に際して、地元の記録撮影担当として関わったそうで、伝統技術の継承に関わる杣の姿を20年後へも伝える大切な役目です。写真の左奥で、朝から斧(ヨキ)を振り続けてマメだらけになった手を見つめる杣の様子が印象深かったそうです。



テーマ1 優秀賞

「黄昏時の一踏ん張り！」熊澤さん 最優秀賞の「空師」とは熊澤さんのことです！黄昏時の作業では一踏ん張りではなく二踏ん張り、もっと頑張ったとか。「空師」としての技術を学ぶため、その道のプロをたずねて全国を周ったそうです。高い所を怖がらない後輩には「それが危ないのだ」と諭すよき先輩です。



テーマ1 優秀賞

「これが三ツ緒伐りかあ、すっご！」

桂川さん

森林文化アカデミーの学生たちに年に一度、伝統的伐採技法について知ってもらうために行っているそうですが、これは学生のためだけでなく、伐採に関わる杣にとっても技術を継承、確認するためにも非常に重要な機会になっているそうです。

テーマ1 優秀賞

「真夏のマスク仕事」 倉田さん

伐採後の地拵、植付、下刈など数々の作業を経てこの忌避剤散布にたどり着くという造林作業の苦勞を山への愛情を込めて語ってくれました。生産現場で伐倒に従事する人達をカッコいいと思うことはあるけれど、その山を育てているのは造林・保育作業をしている自分たちだ、と誇りを持っておられることが伝わりました。



テーマ1 優秀賞「光に見送られて」

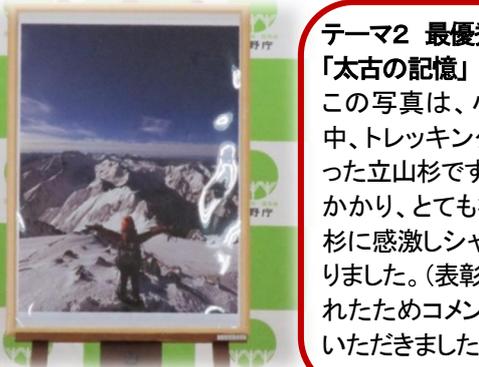
平澤さん

こうした大木の伐採に携わる前日は、無事にできるだろうかという不安と緊張で眠れなくなることもあるのだとか。当日、周囲では多くの方がこの伐採を見守っており、役目を終え、材として次のステージへ向かうケヤキを、あたたかな夕日とともに見届ける様子が印象に残ったそうです。

テーマ2 優秀賞

「ぜーんぶ私のもの」 藤垣さん

初冬の剣岳早月尾根の稜線には人影ひとつなく、澄み切った空気の中、静寂と圧倒的な絶景が広がるばかり。その全てを独り占めする贅沢なひとときは、自然と向き合う喜びを改めて感じさせてくれました。(表彰式は欠席されたためコメントをお寄せいただきました。)



テーマ2 最優秀賞

「太古の記憶」 水野さん

この写真は、小雨の降る中、トレッキング中に出会った立山杉です。少し霧がかかり、とても神秘的な大杉に感激しシャッターを切りました。(表彰式は欠席されたためコメントをお寄せいただきました。)





テーマ2 優秀賞「山の神」
牧園さん

職場近くで見られる景色とのことで、前年に同じような景色に出会ったものの、カメラが手元になく、撮影できなかったそうです。時期と気象条件を確認し、満を持して撮影した1枚です。石徹白という地域が生み出す特別な風景です。



テーマ2 優秀賞「眩い鏡池～八方池～」
小椋さん

快晴で風もなく好条件が重なった時に山々がくっきりと鏡のように映るという、運がよくないと見られない風景をおさめたものです。山でしか見られない景色、そして山へ行ける体と環境に感謝しながらこれからも出掛けていきたいです。



テーマ2 優秀賞
「ライチョウと槍」桂川さん

毎年蝶ヶ岳へ登られるそうで、ライチョウとの出会いも楽しみの一つ。大型望遠レンズでの撮影と思われがちですが、2、3メートル先の姿を撮影したものです。温暖化による植生変化や天敵となる野生動物の増加がライチョウに与える影響を心配しています。

受賞されたみなさま、
作品に対する思いを
お届けいただきありが
とうございました。

テーマ2 優秀賞
「この木、足が生えている」今井さん

代理で出席された坂さん、作品のお子さんは息子さんだそうです。木育の一環として森林へ出かけたり、林業機械に接する機会を設けて、山への親しみを感じるよう積極的に英才教育を進めているとのこと。将来が期待できそうですね。



受賞作品の詳細はこちら



賞状を手にして記念撮影
おめでとうございました

広報「中部の森林」258号
発行：林野庁中部森林管理局
編集：総務企画部 総務課 広報

〒380-5875 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
<https://www.rinya.maff.go.jp/chubu>



メールマガジンへ登録いただくと、広報「中部の森林」の発行日に URL を配信します。

(奇数月の発行を予定)

メールマガジンの登録サイト

<https://mailmag.maff.go.jp/m/entry> において

配信を希望するメールマガジンの中から

中部森林管理局広報「中部の森林」を選択して下さい。